

# 保育実習（保育所・施設）のポートフォリオ（記録）活用による 学生の成長の縦断的变化の検討

松永 静子・市川 奈緒子

キーワード：自己評価・成長・可視化

## 1. 問題と目的

保育士養成における実習とその指導は、学生の成長を支える大きな意義を持つ。そのため、実習の記録の質の向上やその活用は非常に重要である。本学ではこれまで保育所、施設それぞれの実習における事後指導記録で自己評価などを実施してきたが、保育所実習Ⅰから施設実習Ⅰ、さらに保育所Ⅱ、施設実習Ⅱ、とすべての実習の継続的な自己評価記録はなかった。それぞれの実習を経験し、成長していくことをより自覚的に可視化できる継続した記録として自己評価表をポートフォリオ化することで実習指導上からも、学生からも記録を有効に活用できるのではないかと考えた。そのため実習指導における個人記録活用方法の検討（2014 松永・市川）をもとに、今回は保育実習ⅠからⅡで各実習における目的とそれへの取り組みの学生の自己評価を連続して記録させ、その記録を積み重ね、学生が自分の課題と成長を可視化できるポートフォリオ化を目指し、継続調査したものである。さらに本研究では実習授業により、学生の成長の縦断的变化を分析し、ポートフォリオ活用の裏づけとして検証し、活用の実施を検討するものである。

## 2. 方法

- ①方法：本学の学生2年次の保育所実習Ⅰ事後、3年次施設実習Ⅰ事前、事後、保育所または施設実習Ⅱの事前、事後、それぞれ自己評価し、アンケートに記録、回収した。
- ②時期：2014年2月～2014年12月
- ③対象：保育士資格取得を目指す学生（122名）

## ④アンケート内容：

- 1) 保育所実習後の達成感、1.2.3.4の段階を選択、その理由を記入。実習後の自分の成長1.2.3.4の段階を選択、評価理由を自由記述で記入
- 2) 施設実習事前の記録では自身の課題を記入、取組の姿勢も記入、事後では保育所事後の自己評価同様に記録、
- 3) 保育所Ⅱ、施設Ⅱでは事前記録は施設実習Ⅰ同様の記録事後の自己評価は保育所実習Ⅰ、施設実習Ⅰ同様の自己評価、
- 4) 保育実習を終えて実習ⅠとⅡを終え、このポートフォリオを見て自分自身の変化をどのように感じるか、保育士を目指すうえで自己課題を書く

## 3. 結果と分析

回答総数 122 件（1）評価結果について

保育実習Ⅰの事後の評価結果：＜実習での達成感＞自己評価4は33名、3は81名、2は8名、1は0であった。＜実習後の自分の成長＞は評価4が37名、3が85名、2は0であった。

保育実習Ⅱの事後の結果：＜実習での達成感＞4は42名、3が83名、2が8名＜実習後の自分の成長＞では評価4は34名、3は88名、2は0であった。

全体の結果では実習ⅠからⅡで、＜達成感＞の評価4が増加していたが、＜成長＞は若干減少、しかし評価2は0であった。

（2）評価理由の比較分析（※保育所実習Ⅰ後の例）

保育所実習Ⅰの評価で自己評価を4に入れた

33 名を高評価群、自己評価を 2 としたものの 8 名を低評価群として比較検討する。

#### ① 低評価群の結果

＜実習での達成感＞2 とした学生は 8 名おり  
＜実習後の自分の成長＞については 3 としたものの 5 名、2 としたものの 3 名であった。

＜評価理由＞自由記述の中からキーワード抽出した。結果、難しい（2）、分からない（2）、見落とした（1）、精一杯（1）、あまりない（1）、行っていない（1）、など否定的なワードが多く見られたが、気づき（1）、捉え方が変わった（1）、などポジティブなワードも数名ではあるが見られていた。

#### ② 高評価群の結果

＜実習での達成感＞4 としたものの 33 名、そのうち＜実習後の自分の成長＞でも 4 にしたもの 19 名、3 にしたものは 14 名であった。

＜評価理由＞自由記述では、理解（10）、変わった（5）、学びが深まった（5）、意識（3）、その他充実した、達成感など否定的なワードは全く抽出されなかった。

### 4. 考察

保育実習ⅠからⅡについて、保育所実習後に施設実習を経験することで、Ⅱの成長の自己評価が高くなる傾向にあることが明らかであったが、達成感では責任実習での失敗経験が自己評価をやや低くしている傾向にあった。しかし、このポートフォリオを見ての自由記述にはほとんどが自己の課題の質が高まった、克服して取り組めた、など自己分析が明確化され、自身の成長を確認していることが推察された。本研究では 3 年次の保育所実習Ⅱ、施設実習Ⅱまでの調査結果であるが、本学では 4 年次に教育実習Ⅱ（幼稚園実習Ⅱ）を実施している。最終の実習で学生各自が保育実習での自己の成長・評価をどのように総括するのか、またその後の教育保育実践演習の授業と関連性を持たせていくべきか、研究課題として検討したい。また、本調査の目的のポートフォリオ化が効

果的に活用できるかは、各実習の事前の課題、事後との関連性の質的な分析、上記の研究課題も検討し、それらを踏まえたうえでポートフォリオの実施をすすめていきたい。